

報道関係各位

株式会社留学ジャーナル

**留学ジャーナル『2016年夏休み留学動向』を発表**

**大学生の夏休み留学予定者が10年連続増加、過去10年で最多※に  
～大学生の夏休み留学は、2年次の1ヵ月留学が主流に～**

※毎年5月末時点での夏季短期留学プログラム(8週間以内)申込者数の比較による

雑誌「留学ジャーナル」の発行元であり、日本最大級の留学エージェントでもある株式会社留学ジャーナル(本社:東京都新宿区信濃町34 JR信濃町ビル、代表取締役社長:安藝 清、以下「留学ジャーナル」)は今夏の短期留学申込み動向および留学予定の大学生を対象に留学意識調査を実施し、「2016年夏休み留学動向」としてまとめましたので、以下の通りご報告いたします。

**＝調査結果トピックス＝**

**【「2016年夏の短期留学動向」申込者データより抜粋】**

**■大学生の夏休み留学予定者は10年連続で増加、過去10年で最多数を記録**

大学生の夏の留学申込者は、10年連続で増加し、過去10年で最多数となりました。官民協働で進められている留学促進プログラムや留学支援に力を入れる大学の増加に伴い留学が身近なものになりつつある一方で、期間や留学先の学校など、より自由に選択できる留学のニーズが拡大した結果、当社においても申込み者数が増えているものと見られます。

**■大学生の夏休み留学の主流は「2年次の4週間」留学。「3年次の4週間」は前年より23%減少。**

大学生の申込者数を学年別で見ると、大学2年生が前年より9%増加し最多で、次いで3年生、1年生の順でした。留学期間はいずれの学年においても4週間が最も多かったものの、大学3年生は前年比-23%と大きく減少した一方で、大学2年生の4週間留学は昨年より57%増加し、大学生の夏休み留学の主流となっています。大学3年生は来年に控える就職活動を見据えて企業インターンシップに参加するなど忙しく、留学のための時間が取りづらくなったことが原因のひとつと考えられます。

**■留学先TOP5をカナダ・オセアニアが独占。比較的安全とされる地域が人気に**

申込人数による留学先都市のランキングでは前年と同順位で、1位バンクーバー、2位トロント、3位パース、4位オークランドとカナダ・オセアニア地域が独占する結果になりました。続く5位には昨年8位だったブリスベン(オーストラリア)が急上昇し、テロ事件などの治安を危惧する若年層を中心に、比較的安全とされるオセアニア地域が選ばれたようです。

**【「夏の留学を検討している大学生への意識調査」アンケート結果より抜粋】**

**■留学のきっかけは「友人や家族など知り合いの留学」が3年連続増加でトップに**

「友人や家族など知り合いの留学」が自身の留学に影響を与えたと68%が回答。3年連続で上昇しました。官民主導で進められている大学生の留学促進プログラムの浸透や、身のまわりで留学する友人が増え、留学が身近なものとなっていると予想されます。

**■「留学が今後のキャリアに役立つと思う」が92%。海外勤務への意欲は男女間での差が顕著に**

「夏休み留学が今後のキャリアに役立つと思うか?」の問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」が全体の92%を占める結果となりました。一方、将来の海外勤務への意欲については、男性の71%が「そう思う」「ややそう思う」と回答したのに対し、女性では57%にとどまり、男女間で差が見られました。

**■長期留学にあたり、企業の採用スケジュールを気にする学生が増加**

「長期留学する上で、就職活動に関して気になることは何か?」の問いに対し、「就職活動の準備不足になるのでは」(37%)、「企業の採用スケジュールが明確でない」(31%)が上位にランクインしました。

◆出版・印刷物等へデータを転載する際には、必ず「留学ジャーナル」とクレジットを入れ、下記までご一報くださいませようをお願いいたします。

◆ここに掲載いたしました内容は抜粋版です。より詳しくまとめた完全版をご希望の方は、下記までお問い合わせください。

※本資料は文部科学記者会および厚生労働記者会で配布しています。

～本件に関する報道関係者様のお問い合わせ～

株式会社 留学ジャーナル 広報担当: 石澤、久保

TEL: 050-3033-4122 FAX: 03-5312-4469

E-mail: pr@ryugaku.co.jp URL: http://www.ryugaku.co.jp

Facebook 公式ページ「留学ジャーナル」: https://www.facebook.com/RyugakuJournal

■調査結果サマリー

①「2016年夏の短期留学動向」編

【データ概要】

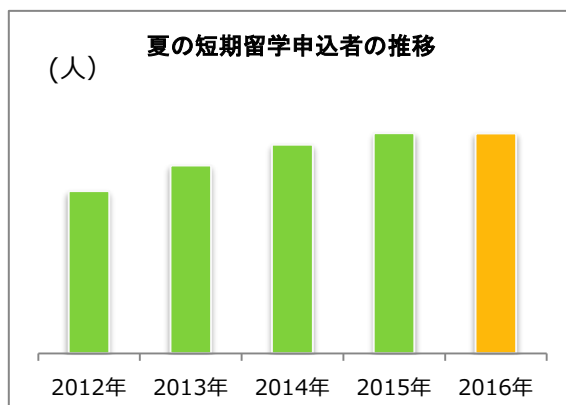
調査対象：2016年5月末時点における、2016年7月～9月に8週間以内の短期留学プログラム\*での出発予定者  
 ※8週間以内の弊社留学プログラム

調査データ：2016年5月31日までの調査対象プログラム申込者データ

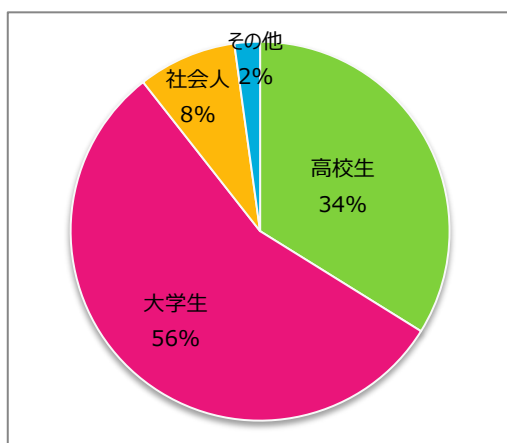
1. 夏の短期留学 申込み状況<全体>

■大学生の夏休み留学予定者は過去 10 年で最多数を記録

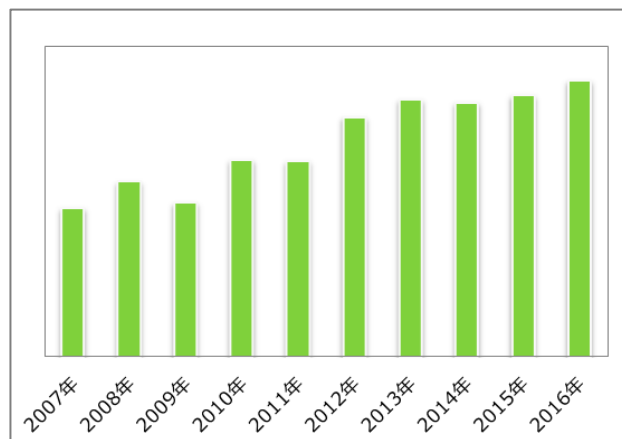
2016年5月末時点における、夏の留学（8週間以内の留学で7～9月に出発）への申込者は、全体の56%を占める大学生が、10年連続で増加し、過去10年で最多数を記録した。官民協働で進められている留学促進プログラムや留学支援に力を入れる大学の増加に伴い、留学が身近なものになりつつある一方で、期間や留学先の学校など、より自由に選択できる留学のニーズが拡大した結果、当社においても申込み者数が増えているものと見られる。



夏の短期留学申込者の年代割合



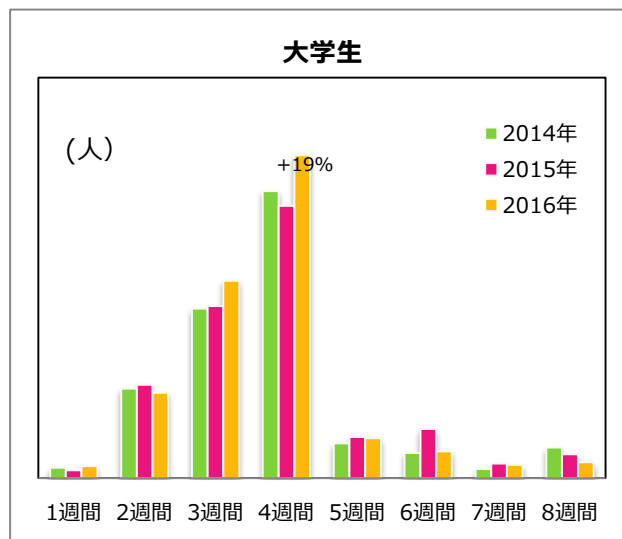
夏の短期留学申込者の推移<大学生>



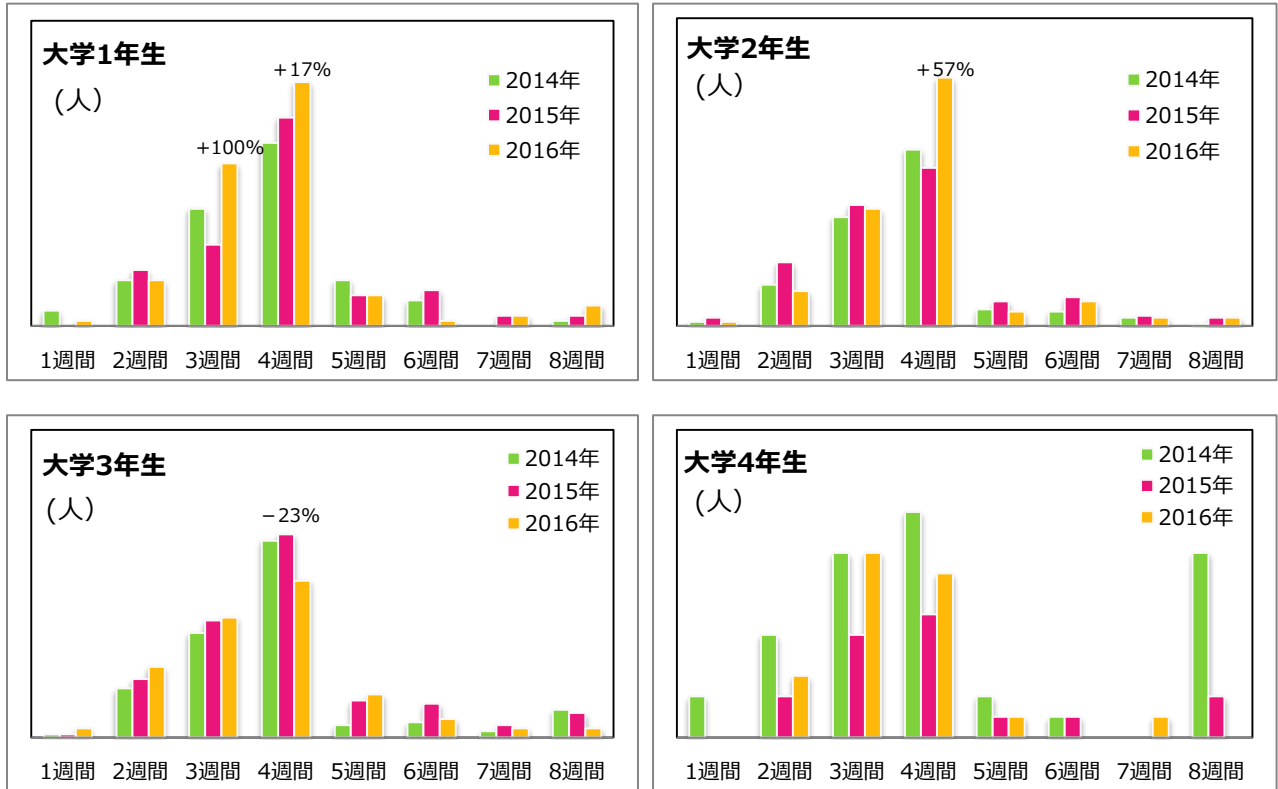
2. 留学期間<大学生>

■大学生の夏休み留学の主流は「2年次の4週間」留学。「3年次の4週間」は前年より23%減少。

全体では前年減少した4週間の留学申込者数が、今回約20%増加し、1ヵ月間の留学の人气が続いている。学年別でみると、大学1年生と2年生の伸びが大きく、夏休みを好きに使える1・2年次に、海外で経験を積もうとする学生が増えていることが伺える。一方で、大学3年生では、4週間の留学は23%減少し、1週間～3週間の留学が増加するなど留学の短期化が見られた。学年別期間別では、大学2年次4週間の留学が、大学生の夏の留学の主流となっている。学年が上がるにつれ、インターンシップや資格取得に向けた勉強など、その時期に合わせた活動への参加を余儀なくされるため、留学のためのまとまった時間が取れない大学生の実情が伺える結果となった。



留学期間（年代別）



3. 留学先都市別ランキング<全体>

■TOP5 をカナダ・オセアニア地域が独占。治安がよい地域を留学先に選ぶ傾向が強まる

下の表は、2016年7～9月に出発予定の短期留学プログラム申込者の留学先都市を、申込人数によるランキング形式にしたもの。今年はTOP5までを、カナダとオセアニアが独占。これは、申込者がテロ事件などの治安を危惧する若年層を中心に、比較的安全とされる地域を選ぶ傾向が強かったことが理由として挙げられる。オセアニア地域の中でも、オーストラリア・ブリスベンが昨年の8位から今回5位まで急上昇したのは、温暖で住みやすい地域であることに加え、近年は日本・ブリスベン間でLCCなども多く運行していることからコスト面でも節約につながるということが理由のひとつと推測される。

留学先都市別ランキング 全体

2016年	都市	2015年
1位	バンクーバー（カナダ）	1位→
2位	トロント（カナダ）	2位→
3位	パース（オーストラリア）	3位→
4位	オークランド（ニュージーランド）	4位→
5位	ブリスベン（オーストラリア）	8位↑
6位	ロサンゼルス（アメリカ）	7位↑
7位	サンディエゴ（アメリカ）	5位↓
8位	ロンドン（イギリス）	6位↓
9位	シドニー（オーストラリア）	16位↑
9位	ビクトリア（カナダ）	13位↑

②「夏の留学を検討している大学生への意識調査」編

【データ概要】

調査対象：留学ジャーナルカウンセリングセンター（東京・大阪・名古屋・福岡・岡山）に8週間以内の留学相談に訪れた大学生に任意で実施したアンケート調査の結果

調査人数：117名（男性41名、女性76名）

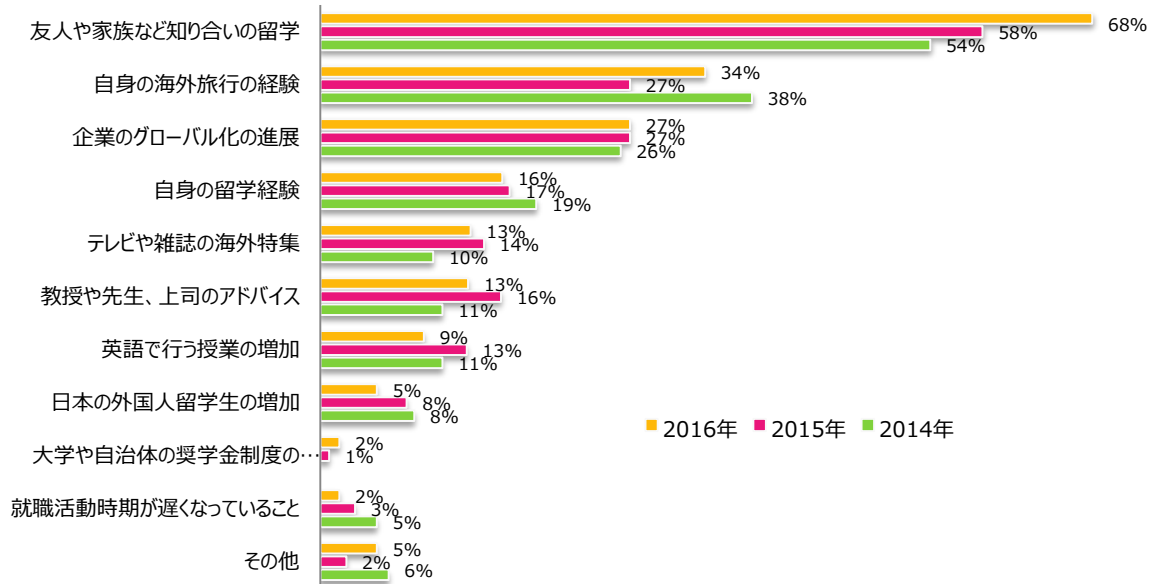
調査期間：2016年4月4日～5月14日

## 1. 今回の留学を検討するにあたり影響を受けたと感じること

### ■友人や家族など知り合いの留学に影響を受けた学生が3年連続で増加

1位となった「友人や家族など知り合いの留学」(68%)は3年連続で上昇。官民協働で進められている大学生の留学促進プログラムが学内でも浸透する中、自身の周りでも留学する友人が増え、年々留学が身近なものとなっていることが伺える。続いて、「自身の海外旅行の経験」(34%)「企業のグローバル化の進展」(27%)が続く結果となる。

【今回の留学を検討するにあたり、影響を受けたと感じること】※回答項目をあげた中から複数選択(上位3つまで)

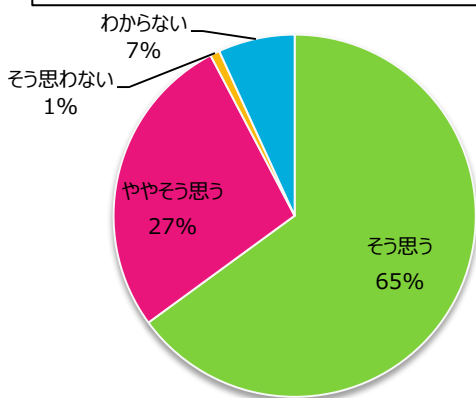


## 2. 夏休みの留学が、その後のキャリアに与える影響について

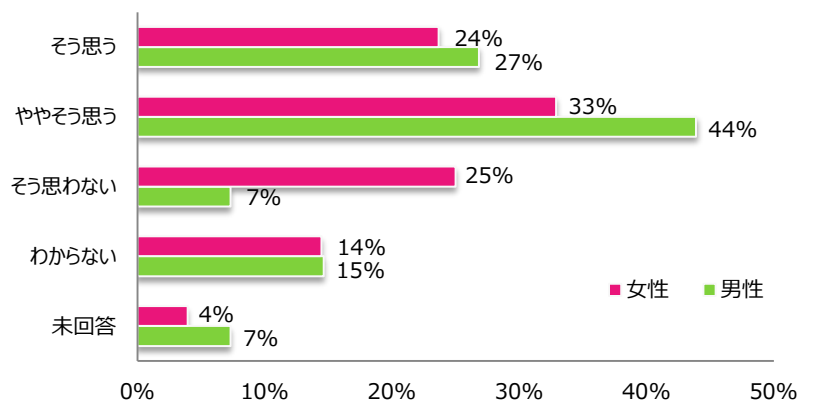
### ■留学後のキャリア観は、海外勤務に対して男女間で意欲に大きな差

「今回の留学が、今後のキャリアに役立つと思いますか?」という問いに対しては、全体の92%が「そう思う」「ややそう思う」と回答。また「将来海外で働きたいと思いますか?」という問いに対しては、男性の71%が「そう思う」「ややそう思う」と回答した一方で、女性は57%にとどまり、男性の方が海外勤務に対して意欲的であるという結果が得られた。

今回の留学は、今後のキャリアに役立つと思いますか?



将来海外で働きたいと思いますか?



### 3. 長期留学と就職活動について

#### ■長期留学をする上で、企業の採用スケジュールを気にする学生が増加

「長期留学をするうえで、就職活動に関して気になることは何ですか？」という問いに対し、昨年アンケート調査結果では、「留学経験が評価されるのか」(33%)、留学をすることで「就職活動の情報不足になるのでは」(26%)という回答が上位に挙がった一方、今年の調査では、「就職活動の準備不足になるのでは」(37%)、「企業の採用スケジュールが明確でない」(31%)、「留学経験が評価されるのか」(31%)が上位となった。

特に、「企業の採用スケジュールが明確でない」は昨年と比べ、15ポイントも上昇しており、経団連が毎年発表している企業の採用スケジュールの変更に伴い、就職時期の明確な時期が定まらず、学生が長期留学を躊躇する要因にもなっていることが推測される。

#### 長期留学するうえで、就職活動に関して気になることは何ですか

※回答項目を挙げた中から複数選択（上位3つまで）

